

奈良教育大学同窓会会報

まほろば

第24号



目次

○会長挨拶、平成23年度活動方針	2
○学長挨拶	3
○平成22年度同窓会一般会計決算書	4
○同窓会総会	5
○同窓会だより	6
○第11回公開文化講演会	10
○第11回一日親睦会のご案内	11
○表紙の絵について	11
○事務局だより	12

2012年
同窓会総会のご案内

■と き

平成24年5月20日(第3日曜日)
午前10時から

■と ころ

奈良教育大学 山田ホール 他

○出席者は、準備の都合上、
5月11日(金)までに事務局へ
お申込みください。

◆ ご挨拶 ◆



若葉の美しい季節です。みなさま方も何かと明るい気分でお過ごしのこととお察し申し上げます。それにしても3月11日の東日本大震災にはまったく驚かされました。5月10日時点で死者14,919人、行方不明9,893

人の方々の安らかな眠りをお祈り申し上げるとともに、被災された方々の1日も早い復興をせつに願っております。今回は想定外のM9.0の海溝型巨大地震、想定外の大津波、原子力発電所の多重大事故と三重の苛烈さ。「災害は忘れた頃にやってくる」は、よく知られた寺田寅彦の言葉ですが、阪神淡路大震災から16年、またしてもの思いを抱くとともに最近の災害規模の巨大化に震撼させられます。

さて微力ながらこの立場についてはほぼ1年、支会の集いの度にご一緒して、それぞれの支会の皆さまにお会いすることができ、また活動を知る機会とさせていただきます。年1度の懇親を深める機会に、地域の歴史、先人の功績の発掘などの研修の機会として、新人の啓発の場として、中堅層の研修の機会として等活発な活動に、よく工夫を重ね取り組んで下さっております。しかし、世間一般の例のように多くの支会で若い会員の姿が少なく、本部の活動も同様

会長 西田 史朗

ですが、寂しさをかくせません。

今春、奈良教育大学の卒業・修了者は353名でした。そのうち50パーセント余りの方が入会手続きをしてくれました。昨年度もほぼ同じ状況でしたが、卒業2年目の今年の会費納入は数パーセントに急落しています。こうした傾向は近年の実態です。入会手続きの如何にかかわらず、奈良教育大学の卒業・修了者はすべて同窓会員です。同窓会は、人生の一時、この地で暮らし、このキャンパスで学び、友情を培った共通の絆での結びつきです。母校を、先輩を、後輩を、何かにつけて思いだすゆるやかな結びつきです。ここで生涯の良き伴侶を見出した方々も数多く、その方々にはとりわけ思い出深い所でしょう。

先の状況について何がそうさせているのか、いろいろ原因を上げることができますが、本部・支会の活動主体の高齢化と精神的支柱である「同窓の絆」意識の希薄化があるように思われます。前者については、企画・広報活動の工夫がされてきましたが、活動の中心に若い人たちを加えたいっそうの増進が必要です。後者については、本来考えなくても済むことかも知れませんが、会費に対する見返りサービスが考えられます。物質的な事柄は論外ですが、さしあたり会員の知的な向上を培う機会を増やすことは可能です。支会レベルで企画に困られた際には本部にご相談ください。

ときには青春の一時に想いをめぐらし、同窓のつながりを大切に、心豊かに暮らそうではありませんか。

平成23年度 活動方針

本大学は、国立大学法人奈良教育大学として、中期目標期間7年を経過し、第2期間へ更なる発展を目指して邁進されている。同窓会としては、本来の目的に従い、大学の運営方針に寄り添って協力し、同窓生の心より所として前進していきたいと考えています。

理 念

- 会員相互の触れ合いを大切にして、親睦を深める。
- 学び合い語り合う場を設定し、互いに教養を高める。

重点目標

1. 会員意識の昂揚をめざし、会費納入の徹底を図る。
2. 支会活動の活性化をめざす。
3. 年次同窓会の組織運営を強化する。
4. 大学の発展に思いを致し協力する。

教員養成大学の原点に立ち返って

学 長 長 友 恒 人

同窓会会員の皆様、奈良教育大学への日頃の暖かいご支援に心から感謝申し上げます。

昨年度は国立大学法人の第2期の目標・計画期間の初年度でありましたが、大学に附属している既存のセンターに新たに持続発展・文化遺産教育センターを加えて全学のセンターを教育研究支援機構として、学部と大学院の教育研究をバックアップし、教育委員会や学校現場と連携する組織として再編しました。

一昨年度から検討を重ねてきた学部の改組についても、平成7年に発足した新課程（現在の総合教育課程）の学生募集を停止して、教員養成に特化する抜本的な改組を来年4月からスタートいたします。15年以上に亘って培ってきた新課程における教育の成果を再構築して新しい教員養成課程に生かすこと、カリキュラムフレームワークを学部と大学院を見通した教員養成プログラムの中核として再構築すること、実践力のある（高度）専門職業人としての教員を養成すること、を念頭に置いて詰めの検討をしているところです。

最後になりましたが、東日本大震災で被災された多くの方にお見舞いを申し上げますとともに、同窓会員の皆様のご健勝を祈念し、今後とも母校の発展のために物心両面からのご支援とご指導を心からお願い申し上げます。

同窓会員の皆さまへ

皆さまへのお知らせとして会報「まほろば」が、年1回発行されています。また財政逼迫の状況下で会誌の発行を休止していますが、広報不足はできるだけホームページで補いたく考えています。

同窓会のホームページは、奈良教育大学のホームページから

「奈良教育大学同窓会」で検索すると、古いページが出てくることがありますので、上記からアクセスして下さい。

会員の作ったホームページを紹介します

紀伊半島ジオパーク構想 <http://www.eonet.ne.jp/~yamato100ma/>

小さな小さなプランクトンと化石のアルバム <http://www.eonet.ne.jp/~coccolith2009/>

ホームページをお持ちの方は、お知らせ下さい。同窓会のホームページを楽しいものにするためのアイデア、また会員相互の情報をお知らせ下さい。ただし高齢マニア(会長)の手作りにつき小洒落た表現はできないことをご了承下さい。

平成22年度 奈良教育大学同窓会一般会計決算書

(平成22年4月1日～
平成23年3月31日)

22年度の会費の決算は下記のとおりです。予算額ならびに比較増減は省略しました。

(歳入の部)

款	項	収入額(円)	備 考
会 費		4,695,960	
	1 通常会費	4,255,960	2,000×471 1,920×364 1,880×1,391
	2 入会金	252,000	1,500×168
	3 臨時会費	188,000	2,000×94 (総会参加費)
寄 付 金	寄付金及び広告料	30,000	寄付
繰 越 金	前年度繰越金	0	
利 子	利子及び雑収入	96	利息
合 計		4,726,056	

(歳出の部)

款	項	支出額(円)	備 考
事 務 費		2,063,383	
	1 報酬	1,200,000	事務局長報酬
	2 諸手当	400,000	交通費・諸手当
	3 役員旅費	389,620	役員会旅費等
	4 備品費	25,450	
	5 消耗品費	21,393	金銭出納帳・模造紙等
	6 通信費	26,920	ハガキ・切手等
会 議 費		424,860	
	1 役員会費	21,840	本部会・理事会・評議員会・委員会等
	2 総会費	403,020	放送機器操作・懇親会費等
事 業 費		2,358,890	
	1 会報発行費	2,260,507	会報「まほろば」23号発行
	2 会員慶弔費	22,383	
	3 新会員歓迎費	76,000	入会歓迎会費・記念品(筒)
	4 事業活動費	0	
	5 事業基金	0	
予 備 費		16,065	
	予備費	16,065	
合 計		4,863,198	

差引現在高 4,726,056-4,863,198=-137,142

会費納入についてお願い

同窓会の年会費は2,000円です。下記の何れかの方法で納入してくださいようお願いいたします。

1. 同封の振替用紙をご使用ください。
(できればATMを利用してください。)
2. 直接現金、または郵便振替
(振替番号00900-2-9400)でも結構です。

会費は、できるだけ早くお納めくださるようお願いいたします。

監査報告

平成22年度の会計資料について監査をいたしましたところ、諸帳簿等はいくつも整備され、正確適正に処理されていたことを認めます。

平成23年4月8日

会計監査 廣瀬 裕司 ㊞

峯田 孝治 ㊞

同窓会総会

年に一度の里帰り

私たちは昭和二十年の卒業生です。四十八回続けてきた同窓会を、平成二十年の集まりを最期に切りつけました。

「お互いに元気でしっかり生きてさえいれば又お逢いできるでしょう。その日を楽しみに。」「一度お会いしたいです。」「お元気でいらっしゃいますか、お目にかかりたく存じます。」など逢いたいという年賀状をいただきます。「同窓会の総会でお逢いしましょう。」と誘いました。総会がクラスの集まりのようなものになり、今年も十四名の出席の申し込みがありました。

これまで総会に来たことのない方も、出席すれば、会の様子もわかり、役員の方々の御苦労も理解できます。この会を開くまでの日常のお仕事が、当日頂く資料からも読みとることができるのです。

総会は行事次第に従って進み議事もすべて終わった後のアトラクション。中岡清風先

昭和20年卒 梶田 美子

生の弾き語り。二人の先生の詩吟。朗々とした吟詠に圧倒されました。続いての楽桜混声合唱団による演奏。すばらしい混声合唱、感動して聞き入るばかり、最後に、「みんなで歌いましょう。」と起立して「ふるさと」を合唱。久し振りに声を出しての歌に心が洗われました。

午後の懇親会、その時の語り合いも和やかでした。今年は一級上の方と同席することになり、学生時代の寮生活を思い出しました。戦時中で厳しかったけれど、今思うと懐かしさいっぱいです。

今年初めて来た方が、「来てよかった。」「誘ってもらってうれしかった。」と本当に喜んでくれました。

「来年も里帰りできるように、一年間体調を整えて過します。」こんな言葉を交わし、別れを惜しみながら「さようなら」しました。有難うございました。



本学音楽専攻者同窓会員による「楽桜混声合唱団」のコーラス

(指揮 佐竹 司郎氏)
(伴奏 島崎 始子氏)

会員による「ふるさと」斉唱



同窓会だより

同窓会賛歌

寄る年波には勝てないと思いつつも、日々健康第一の生活です。老いの坂道、転げ落ちぬよう必死になって……朝体操、ウォーキング、朝コーヒー、サプリメント飲用、野菜ジュース、健康器具愛用、花壇の手入れ。「とにかく、健康でなくては」と時に出会う同輩との会話は健康で盛り上がりを見せるのです。そんな折、皆が待ちに待った同窓会が平成22年11月6日橿原ロイヤルホテルにて開かれました。

奈良学芸大学昭和33年度入学の面々が相集い、久方ぶりの出会いに顔を輝かせていました。今回は天理市が幹事役、なごやかに集えることに気を使っていたきました。参加者は28名。48年振りに出会った西村信幸さん・橋本(坂上)正彦さん、岡山から参加の渡辺(大林)節子さん、小学3年生のお孫さんと同伴の岸本(厳樫)芳子さん達を交えての会話に花が咲きました。大学卒業から48年、走馬燈のめぐるが如く去来する中、懐かしい思い出や青春時代のあの時あの頃にタイムスリップして気分は学生になりきっての会話です。「今、どうしてるの」から始まった話に終わりはありませんでした。生き

昭和37年卒 辰巳 恵子

生きしていること、自分の体のこと、孫達のこと、隣近所のこと等皆でわいわい話が続きました。

昨今の教育現場に思いをはせて、昔と違う難しい問題が山積していることを互いに憂い合いました。今の子ども達は物質的にはめぐまれた環境の中にいますが、心が満たされずに学業に追い立てられています。これで良いとは誰も思っていないのですが、落ち着きのない世の中を反映しているのでしょうか。学びの中にいる子ども達の未来が幸せいっぱいであることを願わずにはいられない思いです。まずは私達自身の生き様を振り返ってみることから始めねばならないことでしょう。

次回の同窓会は2年後に奈良市で開催されます。楽しい一時はあっという間に過ぎ、心充つる思いで再会を約束してそれぞれの家路につきました。日本の豊かさが老人を精神的に弱くしていると曾野綾子さんは言っています。気力が弱れば体力も弱ってきます。次回のお出合いまで、本当にそれまでお達者でね。

お知らせ

「昭和33年度入学者 奈良学芸大学同窓会」を卒業50周年記念として下記の通り開催の計画を進めています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

幹事 奈良地区

記

日時 平成24年6月2日(土) 午前11時より
場所 奈良ホテル

以上



各分野で活躍する「三八会」 昭和38年卒 倉本政太郎

「三八会」とは、昭和38年度小学校課程を卒業した者の集まりです。学生の中から仲間意識が強く、卒業時には「卒業アルバム」を作成しました。奈良・大阪・兵庫と場所を移し、毎年11月に会合を持っています。

そして、ボランティア、生き物研究、絵画、篆刻などで活躍している人が多くいます。今回は、その中の「語り部」として、子どもたちに夢と希望を持たすと共に、心豊かな人間の育成に取り組んでいる松本守正さんを紹介します。

読書好きな彼は、保育園・幼稚園・小学校で「語り部」として活躍しています。下記に松本守正さんからいただいた原稿をそのまま載せ、「三八会」の報告とします。



輝く瞳に魅せられて ～お話おじさん今日も行く～

松本 守正

入り口を開けると、ミッキーマウスのエプロン、真っ黒な帽子の私を、子ども達がじっと見つめている。緊張の一瞬である。

退職後、市内の保育園・幼稚園で各園毎月1～2回絵本の読み聞かせを始めて6年が経つ。主に年長組だが、3～5歳児を同時にする園もある。

小学生を担当していた頃は、子ども向けの本を買っては学級文庫を充実し、積極的に読書を勧めた。退職後も、「NHK朗読講座」を受講し、児童書も読んでいた。

園児に絵本の読み聞かせをするようになったきっかけは、教え子が市内で私立保育園を開園したことである。教え子である園長が、「先生に、教室でお話を読んでもらったことが今も心に残っている。園の子ども達に絵本を読んでもらえませんか？」と言われた。我が子や孫には読んだこともあるが、幼児に読み聞かせをしたことはないの、躊躇した。でも私が役に立つのであれば、と引き受けることにした。以来7年目を迎える。初めは1園であったのが、現在は5園に増えている。

私は読み聞かせをする上でいくつか心がけていることがある。1つめは、3、4、5歳児が同時に聞くこともあるので、一つのお話が長すぎないようにしている。きたやまようこ作「ゆうたくんちのいばりいぬシリーズ」等はどの年齢であっても大喜びする。

2つめは、日本の昔話や民話を大切にしている。「むかしばなしシリーズ」、「読み聞かせのための新作、大和の昔ばなし」も面白い。

3つめは、古くからの名作はもちろんだが、新作も積極的に取り入れている。そのためにも新聞や雑誌の出版案内に目を光らせ、図書館、書店に足繁く通っている。

4つめは、季節感を持たせることである。9月は瀬戸内寂聴作、紙芝居「月のうさぎ」12月には、せなけいこ作「クリスマスったらクリスマス」を読んだ。

5つめは、読み聞かせは「ひとり芝居」で、「読解」「演出」「役者」を一人でこなす。事前の読みはもちろんだが、朗読講座の受講、出版社の研修、他の方の読み聞かせを聴く等自己学習を大切にしている。

ところで、今春卒園した子ども達のうち、年少児から3年間私の話を聞き続けた子は、192冊、年長の時だけ聞いた子は45冊の絵本や紙芝居に接している。

子ども達の輝く瞳と歓声は、私、お話おじさんの宝物である。

次回は、趣味を生かして活躍している人たちを紹介します。

古希を迎えて第四回同窓会

熱中症というコトバが連日飛び交う昨年夏、4年ぶりの同窓会をなごやかな雰囲気の中に無事終了することができました。当日、始めの挨拶を年次代表矢追君にお願いしてあり、次のように今回までの同窓会を振り返ってくれました。

「第1回は卒業数年後、昭和40年代に奈良ホテルの南側 今は道路になった古い春日野荘でおこないました。30～40人ぐらいと記憶しています。

第2回は2002年8月24日、60歳の還暦記念に、橿原ロイヤルホテルで。東は神奈川、愛知、兵庫、三重、大阪から72人中44人参加でした。幹事は中林、坊垣内、水口、矢追、橋本、梅村、横山、横手典子、松田、榎野

第3回は2006年9月24日にJR奈良駅西側の日航ホテル奈良開催37名参加。幹事

奥田、藤本、京谷、森本、田畠（中川）、藤田（加藤）

そして今回2010年8月29日、第4回目をここ新しい春日野荘で28名で、開くことができました。幹事 藤木、池田（榎本）、本塚。この間に足立君、久田さん、岡野君、中林君、橋本弘子さんらがあちらの世界に逝ってしまわれました。」

このようにこれまでの経過を詳しく話をしてくれました。

そしてわたしたち全員、その御霊に黙祷を捧げ、次に乾杯の音頭を古希を迎えて益々元気な坊垣内君の発声で会は始まりました。当初、テーブルごとに一人一人のス

昭和39年卒 藤木 喜郎

ピーチも考えていたのですが、会も次第に宴たけなわ、ついにその機会もなくなりました。スナップ写真も沢山撮って楽しい雰囲気の中に時間が過ぎ、気がつくともう幹事引き継ぎの時刻になっていました。次回幹事 藤井、今本、米田、植松、杉村、竹村、さんにはころよく引き受けてもらって有難かったです。

今回の参加者は28人、男子10人 女子18人でした。欠席者の近況報告で親の介護のため、予定している仕事、ボランティア、旅行などで欠席、また、体調を崩しており参加できないという報告もありました。次回幹事さんには同窓会をもっと早く開いて頂き多数の皆さんにお会いすることを期待します。

このあわただしい席上、年次代表 矢追武君 横山英子さんが中心になって大学の同窓会費赤字救済のため、年会費を15名から預かったと後で報告を受けました。その後、古希を記念して、39年卒同窓会のみなさんにも年会費納入をお願いしているところでした。

長年、年次役員をつとめて頂いた矢追武君は引退され、横山英子・藤木喜郎が次回同窓会まで引き継ぐことになりましたのでよろしくお願い致します。



同窓会雑感

大和郡山支会 井上 三夫

昭和二十三年卒の私たちが「喜寿同窓会」を開いてから早や五年が経つ。五十
八名も参加し盛況裡に終えたが、何といっ
ても感慨深かったのは男は「国のまほろば
美し大和、千年あまりを都のここよ、」
と奈良師範学校の校歌を高唱すれば、女
子は「佐保川原の春の朝三笠の山の秋の
暮れ、」と奈良女子師範学校の校歌を
唱い交わすという粋な交歓の調べの一シ
ーンであった。

戦後間もなく男子師範、女子師範が合併
し、男女共学の曙(あけぼの)を体感した仲
間、七十七歳『翁(おきな) 媼(おうな)』の
集いは賑々しかった。

これも五年前のことだが、大和郡山支
会の会長を仰せつかって総会に出席した
ら(いずれも当時)、教育大学の柳沢保徳
学長、大久保哲夫前学長が臨席され、小川
くに子同窓会会長、長田光男前同窓会会長
と、錚錚たる方々のご列席には恐懼感激
した。柳沢様は郡山城のお殿様のご子孫、
大久保様は郡山に居を構えておられ、長
田先生は郡山支会の会員ということでも
ことに有り難い極みであった。

奈良教育大学創立120周年記念式典が二
年前に盛大に開催され、そこに参列したと
きのことだが、式典の式辞は柳沢保徳学長
が、来賓の祝辞は荒井正吾知事が、そして
国立大学代表の祝辞は松本 絃京都大学総
長方がお述べになった。

このお三方はいずれも郡山のご出身で、

不肖、私が教鞭を執っていたときの中学
の生徒さんであったことに、懐旧の憶い
津津(しんしん)と。

さて、わが大和郡山支会は年一度の総会
に、郷土史探訪の意をもって研修を継続し
ている。幸い郡山文化財審議会長をされて
いる長田光男先生の案内、講話をいただき
ながら、同窓会の親睦を温めている。

平成二十二年度から、大阪の中学校長会
長ご経験、の森康雄先生が会長をなさって
いただいているが、氏は『古道・下ツ道』
保存研究会理事をなさっていて、郷土史家
長田光男先生と一緒に会員へそのご造詣を
寄与いただいているところである。



一般投稿

第11回公開文化講演会
「老いて衰えず—先哲の名言に学ぶ健康づくり—」を拝聴して

奈良市

岡本 蒼生恵

最近では定年後も元気で活躍される方が多いと思います。

60代は体力・気力とも余裕がみられ、70代になると健康不安が現れ、80代になると物忘れも加わり、先行き不安になることでしょう。

日頃、私達の歴史探訪グループでの長田先生のご活躍は、定年後の世代にとって、80代になって私達をリードされ、「老いて衰えず」を実践なさっている憧れの先生です。

先頃、先生の旺盛な探求心と行動力の裏付けとなる講演を拝聴することができたのは何よりの機会でした。

私にとって名前も知らなかった幕末の儒学者を含めた先人達がそれぞれに目的を持ち、理論と実践を重ねて幾多の名言を残されました。その中で、健康づくりに関するヒントを長田先生は得られたようです。

長田先生は、健康づくりの基本を「歩く」とことされ、ご自分流に「歩く」ことで「記事を書く」、まわりに伝える「トーク」につなげる「三ク」の楽しみを話され、歩くことから広がる奥深い健康づくりを紹介されました。

また、「人の命は明日どうなるかわからないが、人から信頼され、一つの目的をもって今日を楽しく生きる」ことが、今を輝いて生きることと話されたことが印象的でした。

歴史探訪で歩くことに興味をもって続けてきた私にとって、80代の長田先生の体力と気力は超人的と思っていましたが、日頃の学問と実践の積み重ねが、今日ある姿として行動されていることがよくわかり、私も将来に向けて元気づけられた講演でした。

最後に、奈良教育大学同窓会の記念講演会ながら、私共一般市民にまで拝聴する機会を与えて下さった先生ならびに同窓会の方々に感謝申し上げます。なお、定年後のウォーキング人数もふえている折柄、このような講演は私共にとって大いに有益で力づけられます。できれば今回に限らず、同窓会主催の市民向け講座などを開

いていただければと希望いたします。私を含め一般市民の皆さんの願いでもあると存じます。

奈良市

阿波谷 俊宏

大和郡山市に黄檗宗の発志禅院がある。郡山藩主二代目の本多忠常公の菩提所で、境内歌ヶ崎には亀趺に乗る壮大な忠常公の墓碑が建っている。長田先生はその四面にピッシリと刻まれた墓誌を解説し、一昨年発志禅院で催された忠常公三百年祭の記念講演で、忠常公は領民に慕われ、経済の建て直しを図った名君であったと、その人となりや数々エピソードを交えて興味深く話された。

境内墓地にある文人で知られた柳澤里恭（さとも）の墓をはじめ、周りに散在する藩士達の墓誌を一つ一つ検証し、立札を立てて参詣者の便を図られた。

先生は、また歴史愛好家を連れて各地の史跡を訪ね、地域文化の向上発展に寄与されている。当方も先生の情熱と数々の著作に啓蒙され、長田ファンの一人となっている。

去る11月20日の奈良教育大学同窓会主催の公開文化講演会に「老いて衰えず—先哲の名言に学ぶ健康づくり—」と題して、貝原益軒・佐藤一斎・森田節斎・上杉鷹山など儒者や文人の健康づくりに関する名言を披露された。

佐藤一斎については棟方版画でその名は記憶していたが、特に紹介された「三学戒」、「少にして学べば則ち壮にして為す事あり。壮にして学べば則ち老いて衰えず。老にして学べば則ち死して朽ちず。」の名言には教えられるところが、特に第三句の「老にして学べば則ち死して朽ちず」は健康的解釈もさることながら、浄土信仰への箴言（しんげん）として真摯に受け止めている。

長田先生は自身の健康法として『三ク』を挙げておられる「歩く」「書く」「トーク」であり、歩くことが健康上有益であることは万人の認めるところであるが、トークは先生ならではのオリジナルである。無駄口は慎しまねばなら

ないけれど、おしゃべりは心身を活性化する要因と理解させていただいた。

「脳年齢が若返る最新10ヵ条」に、趣味と緑茶の飲用、いつまでも恋心を忘れるなどを挙げておられる。同感である。及ばずながら当方もこの条々を心がけ、いつまでも若さを保ちたいものと願っている。

当方自坊では、江戸末期より「寺子屋」が開かれ、

明治5年の学校令で「魁化舎（かいかしゃ）」に昇格。陰陽町から現在の木辻町に移り、奈良市立済美小学校となった。その魁化舎復活を目指して平成15年より「おとなの寺子屋」を開設。各界の先生方を招いて奇数月に教養講座を催している。来年（2011年）5月7日（土）には午後2時より長田先生の「春日参道に見る不思議な話」を伺うことになった。今から楽しみにしている。

●第11回 一日親睦会のご案内●

第11回一日親睦見学会を下記のように計画しております。

初冬の景色を満喫しながら、和やかに楽しい一日を過ごしたいと思います。

記

- 期日 **平成23年12月3日（土）**
- 場所 亀山市関町新町
東海道五十三次の内 **関宿**
- 集合 八木 8時00分
田原本8時20分
天理 8時40分
奈良 9時 集合 出発
- 見学 10時～11時30分
- 親睦会（昼食） 12時開宴～14時
- 奈良着予定 16時30分



★ 詳細については、参加を申し込まれた会員の皆様に、直接ご案内申し上げます。

■ 申し込み先 同窓会事務局
☎0743-27-9105

■ 申し込み締め切り **11月1日（火）**

■ 会費 **6000円当日集金いたします。**

表紙の絵について

昭和42年卒 金 本 香 織

「親子鹿」

私は、3年程奈良を離れた。この時は、町に住む心地良さを味わい満足だったが、妙に奈良の土の匂いが懐かしい。再び奈良に戻り、子供を連れ公園に行った。見慣れていた筈の鹿が、私の心に優しく入って来る。あ、奈良の匂いはこの鹿と太古の都の今にある厳かな空気だ。感動に包まれた、何回も足を運び何年も経つ

うち、そして私の画業も進む頃、鹿をテーマに選び描くことが多くなっていった。優しい目、スマートな姿、ヒールを履いた様な細い足、力強い蹄等々に心を奪われた。原生林の残る中、藤も又素晴らしい。

「藤と鹿」幾枚描いても飽きない。四季の変化と共に色も変わる。ことさら春は、明るい毛並みが揃い出したい。そんな気持ちで描いた春の鹿です。

事務局だより

- 母校奈良教育大学は、平成24年度から定員を全て教員養成課程にし、教員養成に力を注ぐことになっています。大学は時の利を得て不況・不景気の中、教採枠は、まだ増え続けています。今年は奈良県史上最多の524名もの採用枠です。今年も27都府県へ卒業生・修了生を送り出しています。ますますの健闘を祈ります。
- 年々同窓会会費の納入率が落ちてきて二割をきりました。現在の会費納入では、通常の運営にも支障をきたしています。会費納入者に領収書代わりに会誌をお送りしていましたが、今年度も困難な状況です。しかも、振込みの際、窓口で振り込んで頂くと手数料が120円かかります。振り込んでくださる際にはATM(自動預払機)を。もしくは現金書留・年次同窓会幹事様・お近くの理事・評議員の方々に預けて頂いて事務局に届けてくださると幸いです。
- 会員の死去に際しては、弔電を打っていますが、知り得るのは新聞紙上や会員よりの連絡等に限られています。特に女性の方、県外の方の消息はつかみかねています。ご連絡をよろしくお願いします。昨年は40数名に弔電を打たせていただきました。
- 同窓会のホームページを年々更新していますが、すでに、18,000名の方々がホームページを開いてくださっています。感想等お寄せください。
ホームページアドレス・連絡先を下記に記しますので、転居・改姓・住居表示変更の場合は速やかに事務局までお知らせ下さい。毎年、250～270名前後の住所未確認者が出ています。
<http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm>
奈良教育大学のホームページを開いて頂いて、そこから同窓会のホームページを開くことが出来ます。

その他の連絡は、下記までお願いします。

電話0742-27-9105(大学総務課より呼び出し)

0743-77-8848(杉本宅)

090-1022-8370(杉本携帯)

E-mail sugimoto@nara-edu.ac.jp

- 個人情報保護には、万全を期しています。

編集後記

- 今年の梅雨入りは例年より早く、しかも梅雨明けは遅くなるだろうという長期予報です。その上、寒暖の差が大きい日々の気象にとまどいをおぼえます。
- 東日本大震災で被災された人々が、過酷な環境のなかで生活されていることを思うとき、一刻も早い復興を願わずにはおれません。
- 会報「まほろば」24号をお届けいたします。年に一度の総会は、今年も会員相互の和やかな交流の場になりました。(p5)一人でも多くのご参加をいただき、会員相互の絆が一層深まることを願っています。
- 表紙の絵は、金本香織氏(昭42卒)にご提供いただきました。奈良公園の四季の彩りは、奈良教育大学で学んだ懐かしい日々を蘇らせてくれます。
- 会員の皆様方のご健勝をお祈り致しますとともに同窓会の活動にご支援ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年度広報委員会委員(五十音順)

北 良夫、倉本政太郎、染井真由美
中村 利典、西尾 千尋、橋本 清
松原 さおり

平成23年6月23日 発行

奈良教育大学同窓会会報「まほろば」第24号

一題 宇 故川淵勝男元会長一

発行所 奈良教育大学同窓会事務局

〒630-8301

奈良市高畑町 奈良教育大学内

☎0742-27-9105(総務課経由)

郵便振替番号00900-2-9400

発行兼編集 奈良教育大学同窓会広報委員会

印刷所 関西印刷株式会社

奈良市南半田中町19-20番地